



徳川慶喜肖像古写真

目 次

博物館のあゆみ

平成8年度.....	2
平成9年度.....	7
博物館の名品.....	12

博物館のあゆみ

平成8年度

館内業務

1. 平常展

○会期=平成8年4月1日～6月30日

館蔵の国宝太刀真恒，重文白檀塗具足等120余点を展示。

○会期=平成8年7月1日～9月30日

館蔵の刀剣・甲冑・染織・書画及び家康遺品を展示。

○会期=平成8年10月1日～12月31日

館蔵の家康遺品を中心に100余点を展示。

2. 新春特別展「徳川将軍家の遺宝」の開催

会期=平成9年1月1日～3月31日

館蔵の国宝太刀真恒，重文打刀拵・齒朶具足・太刀国行・薬秤等の国指定文化財の優品100点を展示。

3. 館報第14号の発行

○平成8年8月1日，平成6・7年度の博物館のあゆみを報告する「館報第14号」を発行し，関係諸機関に配布。



国宝 糸巻太刀拵（秀忠寄進）

館 外 業 務

1. 資料の出品

- 特別展「美の匠たちー日本刀をめぐるわざの世界ー」

会期・平成8年3月26日～5月6日

会場・埼玉県立博物館

重文打刀拵・小さ刀拵, 黒白羅紗陣羽織を出品。

- 「司馬遼太郎の世界ー明治を拓いたひとびとー展」

会期・平成8年5月25日～7月28日

会場・姫路文学館

徳川慶喜像, 慶喜画「日本風景」・「西洋風景」, カメラ, 勝海舟所持合口拵を出品。

- 海外展「桃山の美術」

会期・平成8年9月1日～12月1日

会場・米国グラス美術館

国宝糸巻太刀拵, 重文歯朶具足・火縄銃・手拭掛・耳盥を出品。

- 「寛永の華・後水尾帝と東福門院展」

会期・平成8年10月3日～11月10日

会場・神奈川県立歴史博物館

後水尾天皇宸翰神号, 東照大権現像を出品。

- 特別展「香の文化」

会期・平成8年10月5日～11月10日

会場・徳川美術館

重文驚蒔絵香具箱・金銅獅子鈕香炉・伽羅を出品。

- 「司馬遼太郎の世界ー明治を拓いたひとびとー展」

会期・平成8年10月5日～11月10日

会場・福山城博物館

卯花威胴丸, 刀長吉を出品。

- 特別陳列「牛・丑・丁丑」

会期・平成8年12月21日～平成9年1月19日

会場・名古屋城天守閣

稼穡図屏風一双を出品。

- 特別企画展「家康の生きた時代ー東と西の出会いー」

会期・平成9年3月20日～4月13日

会場・岡崎市美術博物館

重文洋時計・目器・びいどろ壺を出品。

2. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成8年5月13日

会場・静岡県総合社会福祉会館

平成8年度総会が開催され, 松浦館長・宮城島学芸員補が出席。

3. 静岡県博物館協会総会

期日・平成8年5月31日

会場・静岡県立美術館

平成 8 年度総会が開催され、松浦館長・川端学芸員補が出席。

4. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成 8 年 6 月 20 日

会場・岐阜県美術館

平成 8 年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

5. 大名道具収蔵館集会

期日・平成 8 年 10 月 15 日～16 日

会場・鶴岡市東京第一ホテル鶴岡・致道博物館

第 5 回集会が開催され、小林学芸部長が出席。

6. 県博協学芸職員研究会

期日・平成 8 年 12 月 10 日

会場・静岡県立美術館

平成 8 年度研究会が開催され、川端・宮城島両学芸員補が出席。

庶務報告

1. 平成 8 年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4 月	4,939	530	1,019	1,225	602	85	8,400
5 月	5,227	607	1,383	1,137	876	146	9,376
6 月	2,722	129	772	552	268	66	4,509
7 月	2,645	264	565	546	0	36	4,065
8 月	5,621	1,481	128	1,538	0	163	8,931
9 月	4,159	265	1,318	680	0	96	6,518
10 月	3,752	186	2,389	851	541	65	7,784
11 月	4,378	155	1,776	892	516	101	7,818
12 月	2,542	201	402	474	290	38	3,947
1 月	6,046	606	307	583	282	59	7,883
2 月	5,263	323	738	645	244	48	7,261
3 月	6,693	840	1,041	1,002	441	103	10,120
計	53,996	5,587	11,838	10,125	4,060	1,006	86,612

3. その他

○ 4 月 20 日 「プーキン美術館名作展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。

○ 4 月 23 日 清見寺庭園整備記念講演会(清水市教育委員会主催)に小林学芸部長が出向。

○ 4 月 25 日 S B S ラジオが重文鉛筆を紹介。

○ 4 月 29 日, 6 月 2 日, 7 月 7 日, 8 月 10 日・11 日, 9 月 15 日, 10 月 13 日, 11 月 17 日, 12

- 月15日、1月26日、2月23日及び3月23日 臨濟寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 5月10日 和宮生誕150年記念で小林学芸部長が講演（於増上寺、静寛院和宮奉賛会主催）。
 - 5月11日 静岡城内中学校・カナダ交換留学生23名が来館。
 - 5月14日 広島大学日本史学生35名が来館。
 - 5月17日 テレビ静岡が資料を取材・撮影。
 - 5月18日及び12月14日 静岡県史近世部会に小林学芸部長が出席。
 - 5月22日 展示室・保存室の温・湿度を調査。
 - 5月23日 全国広告関係者160名が来館。
 - 5月30日 明治大学附属中学生130余名が来館。
 - 6月14日 館報の編集打ち合わせで小林学芸部長が大塚巧藝社へ出向。
 - 6月25日 全国博物館々長会議（於江戸東京博物館）に松浦館長が出席。
 - 6月27日 展示室・保存室の温・湿度を変更。
 - 7月1日 早稲田大学商議員内藤磐氏夫妻が当館所蔵の三十六歌仙額を調査。
 - 7月5日 静岡県立美術館の開館10周年記念式典に松浦館長・小林学芸部長が出席。
 - 7月15日 展示室・保存室の設備・器具を点検。
 - 8月13日 空調を点検。
 - 9月12日 神奈川県文化財協会一行88名が当館を視察。
 - 10月1日 「ジョージ・シーガル展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長が出席。
 - 10月17日 S B S 静岡放送が家康遺品を取材・撮影。
 - 10月20日 日本美術刀剣保存協会京都府支部員21名が当館の刀剣を特別鑑賞。
 - 10月31日 (財)佐野美術館の開館30周年記念式典に小林学芸部長が出席。
 - 11月9日 「ブータン展」（於静岡県立美術館）の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
 - 11月24日 日本美術刀剣保存協会静岡県支部員26名が当館の刀剣を特別鑑賞。
 - 12月6日 海の名勝管理担当協議会一行が来館。
 - 12月26日 読売出版が当館を取材。
 - 1月27日 防火訓練を実施。
 - 2月5日 NHK静岡が重文洋時計・鉛筆を取材・撮影。
 - 2月19日 静岡市教育委員会黒澤脩氏が当館の駿府城古絵図を調査。
 - 2月22日 静岡県博物館協会監事故井出孝氏の葬儀に松浦館長が参列。
 - 2月25日 国学院大学名誉教授故樋口清之氏の葬儀に松浦館長が参列。
 - 3月11日 静岡県文化財保存協会主催の文化財講座（於浜松領家公民館等）に川端学芸員補が参加。
 - 3月19日 岡崎市美術博物館を松浦館長・小林学芸部長が視察。
 - その他、この期間に下記の人々が来館した。

大多和氏（静岡県立美術館副館長、4月5日）、松平保定氏（4月6日）、徳川義宣氏（徳川美術館長、4月17日）、鴫田孝一氏（大塚巧藝社営業部次長、4月17日及1月12日）、西野和豊氏（フェルケール博物館副館長、4月17日）、黒澤脩氏（静岡市教育委員会、4月17日）、鈴木勝美氏（日本経済新聞社、4月19日）、光本徹氏（駿府博物館長、4月26日）、富田貞雄氏（藤枝東高教諭、4月26日）、江面氏（文化庁建造物課、5月2日）、松原氏（京都建勲神社宮司、5月3日）、井口信久氏（川越市立博物館学芸員、5月3日及

12月31日), 徳川慶朝氏(5月6日及3月2日), 柏木一朗氏(戸定歴史館学芸員, 5月6日及2月6日), 大関良昭氏(テレビ静岡チーフディレクター, 5月12日・14日及17日), 金子真土氏・杉山正司氏(埼玉県立博物館, 5月13日), 頼祺一氏(広島大学教授, 5月14日), 木村幸比古氏(霊山歴史館主任学芸員, 5月16日), 鶴田隆志氏(毎日新聞社事業部長, 5月16日, 6月21日・25日, 9月28日及11月18日), 平沢明氏(会計検査院, 5月20日), 則茂雄氏(明大付属中学校教諭, 5月30日), 徳川斉正氏(徳川博物館長, 6月14日, 11月28日及3月31日), 伊達仁美氏(元興寺文化財研究所企画室長, 6月26日), 相澤正彦氏(神奈川県立歴史博物館主任学芸員, 7月3日及11月19日), 尼崎市長(7月22日), 斉藤孝正氏(文化庁美術工芸課, 7月25日及1月21日), 寺戸常三郎氏(駿府はかり資料館長, 7月29日), 田中豊稲氏(毎日新聞社事業副部長, 8月2日), 鳥居和郎氏・木曾徹氏・岡田修一氏(神奈川県文化財協会, 8月7日及9月12日), 佐藤豊三氏(徳川美術館学芸課長, 8月7日, 9月27日及11月18日), 佐藤誠氏(中部資材, 8月7日), 清水市中学校教諭12名(8月6日), 富士俳句会25名(渡井一信氏等, 8月18日), 太田原有美子氏(静岡県史編さん室, 8月21日), 近藤弘宣氏(丹青社, 9月18日), 塚本学氏(国立歴史民俗博物館名誉教授, 9月24日), 松平乗昌氏(霞会館資料展示委員会, 9月26日), 小沢幸吉氏(静岡市都市開発部, 9月27日), 鐘尾光世氏(福山城博物館長, 9月28日及11月18日), 村松良道氏・藤村雅孝氏(SBS静岡放送制作部, 10月8日及17日), 奥出賢治氏(名古屋城学芸員, 10月17日), 塚原明子氏(名古屋城学芸員, 10月17日, 12月17日・18日及1月25日), 稲田和彦氏・生谷敬之助氏・高津利治氏(日本美術刀剣保存協会, 10月20日), 土井宏晃氏(静岡県史編さん室, 10月21日), 仲倉重郎氏(日本脚本家連盟, 10月21日), 山田健二氏(中央公論社参与, 10月21日), 大木旭氏・古田勝彦氏・村松俊夫氏(日本美術刀剣保存協会, 10月27日及11月24日), 志貴昌澄氏(10月28日), 立花義彰氏(静岡県文化課, 12月6日), 光田勝美氏・鈴木英司氏(中日新聞社, 12月11日), 杉浦健氏(岡崎市美術博物館学芸員, 12月25日), 高橋敦史氏・飯島辰昭氏(読売出版, 12月26日), 本中正典氏(文化庁文化財調査官, 1月9日), 中山正典氏(静岡県文化課, 1月9日), 杉山彰梧氏(静岡市社会教育課, 1月9日), 石川陸郎氏(東京国立博物館, 2月2日), 山本浩司氏(NHK静岡ディレクター, 2月5日), 小村武氏(戸定歴史館, 2月6日), 水上哲朗氏(信玄公宝物館学芸員, 2月6日), 栃木県立博物館職員5名(2月6日), 塩田誠一郎氏・真鍋昌宏氏(香川県教育委員会, 2月13日), 森威史氏(静岡人類史研究所長, 2月16日), 妙法院大久保門主一行(2月27日), 渡辺俊夫氏(茨城県立歴史館, 3月6日), 荒井信貴氏(岡崎市美術博物館, 3月17日), 森下哲也氏・松崎一洋氏(NHK事業部, 3月24日)。

平成9年度

館内業務

1. 小企画展「重文徳川家康の遺品と文書」
会期＝平成9年9月20日～12月19日
館蔵の家康手沢品と官位記を多数展示公開。
2. 平常展
○会期＝平成9年4月1日～6月30日
館蔵の刀剣・甲冑・染織・書画の優品を展示。
○会期＝平成9年7月1日～9月19日
館蔵品のうち、刀剣・甲冑を中心に展示。
○会期＝平成9年12月20日～平成10年3月31日
館蔵の徳川慶喜関係資料を前期に展示。
3. 資料の購入
○平成9年7月30日、幕府関係史料の『御書院番頭旅行日記并在番留』（文久3年～元治元年）1冊を購入した。上洛した十四代將軍家茂の動静が窺われる史料として重要。
4. 資料の撮影
○平成9年9月1日～2日及び11月15日、(株)大塚巧藝社に依頼し、徳川慶喜関係資料の撮影を行った。
5. 甲冑の修補
○平成9年11月12日～平成10年3月31日、鎧司小沢正実氏に依頼し、茶糸威具足（伝八代吉宗遺品）を修補した。

館外業務

1. 資料の出品
○特別企画展「家康の生きた時代―東と西の出会い―」
会期・平成9年3月20日～4月13日
会場・岡崎市美術博物館
重文洋時計・目器・びいどろ壺を出品。
○「皇女和宮―幕末の朝廷と幕府―展」
会期・平成9年10月7日～11月24日
会場・東京都江戸東京博物館
和宮戯画、太刀来国秀、馬面、馬標、筒袖陣羽織、萌葱糸素懸威具足を出品。
○特別展「日本のかたな―鉄のわざと武のこころ―」
会期・平成9年10月14日～11月24日
会場・東京国立博物館
国宝太刀真恒、重文打刀拵・小ざ刀拵・合口拵・刀架を出品。
○「フォンタネージと日本の近代美術展」
会期・平成9年10月23日～12月14日
会場・東京都庭園美術館
徳川慶喜画「日本風景」・「西洋風景」を出品。
○新春特別展「幕末維新の群像」

会期・平成10年1月1日～1月27日

会場・熱田神宮宝物館

徳川慶喜像（油彩）を出品。

○「徳川慶喜展」

会期・平成10年1月31日～2月15日

会場・新宿三越美術館

卯花威胴丸、刀長吉、軍帽、鞍下、釣道具、カメラ等18件を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成9年5月22日

会場・静岡県立美術館

平成9年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成9年6月19日

会場・サンピア浜松

平成9年度総会が開催され、松浦館長、川端・宮城島両学芸員補が出席。

4. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成9年6月25日

会場・静岡市あざれあ

平成9年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

5. 徳川慶喜と明治の静岡推進協議会

○期日・平成9年8月4日

会場・静岡市役所

NHK大河ドラマ「徳川慶喜」記念イベント実行委員会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。

○期日・平成9年11月19日

会場・浮月楼

推進協議会設立総会が開催され、小林学芸部長が出席。

○期日・平成9年12月15日及び3月10日

会場・浮月楼

推進協議会歴史部会が開催され、松浦館長（12月）、小林学芸部長（3月）が出席。

6. 大名道具収蔵館集会

期日・平成9年10月14日～15日

会場・鹿児島県歴史資料センター黎明館

第6回集会が開催され、小林学芸部長が出席。

7. 静岡県文化財保存協会県外研修会

期日・平成9年10月30日～31日

県文協の県外研修会が開催され、宮城島学芸員補が参加。

8. 全国博物館大会

期日・平成9年10月5日～7日

第45回大会が広島市で開催され、松浦館長が出席。

庶務報告

1. 平成9年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	4,331	439	460	799	551	59	6,639
5月	4,857	527	1,272	1,037	627	56	8,376
6月	2,749	110	1,456	455	474	128	5,372
7月	2,657	250	688	518	316	43	4,472
8月	4,853	962	639	1,238	531	80	8,303
9月	3,034	129	575	695	335	7	4,775
10月	3,977	153	1,671	746	664	40	7,251
11月	4,239	250	1,392	1,016	637	117	7,651
12月	2,307	137	340	415	195	4	3,398
1月	3,951	314	275	650	271	45	5,506
2月	3,682	207	343	613	200	23	5,068
3月	5,196	564	330	1,180	467	17	7,754
計	45,833	4,042	9,441	9,362	5,268	619	74,565

2. その他

- 4月9日 ネクサスが重文洋時計・茶壺・菌朶具足を撮影。
- 4月10日 「アルベルト・ジャコメッティ展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 4月18日 NHK(「堂々日本史」)が重文目器・鉛筆・洋時計を取材・撮影。
- 4月27日, 5月25日, 6月29日, 7月27日, 8月24日, 9月7日, 10月26日, 11月9日, 12月14日, 2月22日及び3月22日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸部長が出席。
- 5月28日 宇治平等院役員一行が当館を視察。
- 6月23日 展示室・保存室の温度を20℃から23℃に変更。
- 6月26日 日本博物館協会評議員会に松浦館長が出席。
- 7月18日 防災装置を点検。
- 7月29日 豊田町香りの博物館の依頼で、同館所蔵の香道具を小林学芸部長が調査。
- 8月4日 空調設備を点検。
- 8月31日付で川端洋子学芸員が退職。
- 9月8日, 10月13日, 11月7日及び12月22日 NHK「徳川慶喜展」の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 9月12日 「異彩の江戸美術 仮想の楽園展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。

- 9月29日 S B S 静岡放送が小企画展を取材・撮影。
- 10月1日 静岡朝日テレビが徳川慶喜遺品を撮影。
- 10月3日 徳川美術館新館開館10周年の記念式典に小林学芸部長が出席。
- 10月6日 「皇女和宮展」(於江戸東京博物館)の開会式に小林学芸部長が出席。
- 10月16日 静岡市広報課が徳川慶喜遺品を撮影。
- 11月10日 「20世紀美術の冒険展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 11月19日 NHK「徳川慶喜展」の資料撮影のため、静岡市の白鳥知氏宅に小林学芸部長が外出。
- 11月20日 静岡市広報課が重文薬道具を撮影。
- 11月25日 具足掛を6基新調。
- 12月2日 衣架をカトウスタジオに依頼し、新調。
- 12月4日 展示室・保存室の温度を23℃から20℃に変更。
- 12月25日 S B S 静岡放送が徳川慶喜のことで取材。
- 12月26日 能美防災が器具を点検。
- 1月23日 NHK「徳川慶喜展」の資料借用のため、小林学芸部長が徳川宗家と豪徳寺へ外出。
- 1月26日 同上用件にて小林学芸部長が静岡市の白鳥家へ外出。
- 1月30日 NHK「徳川慶喜展」(於三越美術館)の開会式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- 2月11日 徳川慶朝氏・斉藤洋一氏(戸定歴史館)が徳川慶喜関係のビデオ撮影のため来館。同日、テレビ東京が徳川家康像と慶喜の書を撮影。
- 2月12日及び23日 (株)大塚巧藝社が慶喜の書の複製に関わる資料を撮影。
- 2月15日～16日 NHK「徳川慶喜展」の撤収・返品に小林学芸部長が従事。
- 2月25日～27日 刀剣調査のため、小林学芸部長が東京国立博物館へ外出。
- 3月2日 中京ビデオが静岡市の依頼を受け、慶喜の遺品を取材・撮影。
- 3月15日 T V B O X が徳川秀忠所用の甲冑を取材・撮影。
- 3月24日 (財)MOA美術館学芸部長内田篤呉氏が重文芭蕉蒔絵硯箱を調査。
- 3月29日 三嶋大社宝物館の新館竣工式に松浦館長・小林学芸部長が出席。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

小笠原信夫氏(東京国立博物館工芸課長、4月3日)、杉浦健氏(岡崎市美術博物館学芸員、4月3日及15日)、浜田祐造氏(NHK番組制作局、4月5日及18日)、斎藤仁子氏(ネクサス、4月5日及9日)、杉山彰梧氏(静岡市社会教育課、4月8日)、松平乗昌氏(霞会館資料展示委員会、4月10日及12月1日)、原史彦氏(江戸東京博物館学芸員、4月10日、9月25日及12月1日)、徳川義宣氏(徳川美術館長、4月17日)、黒澤脩氏(静岡市教育委員会、4月17日及21日)、中崎正人氏(熱田神宮宝物館、4月17日及12月24日)、鶴田孝一氏(大塚巧藝社営業部次長、4月17日、9月1日・2日、10月20日、1月3日、2月2日及12日)、笹間良彦氏(甲冑研究家、4月20日)、山本昇平氏(静岡県文化課、5月21日)、池谷正氏(静岡新聞社事業部長、5月23日)、神谷文彰氏(平等院代表役員、5月28日)、石川登志雄氏(京都府文化財保護部、5月28日)、源城政好氏(宇治歴史資料館長、5月28日)、吉岡健二郎氏・山下善也氏・泰井良氏(静岡県立美術館、5月30日)、徳川幸子氏(徳川宗家令室、6月6日)、西野和豊氏(フェルケール博物館

副館長, 6月18日), 三宅国紀氏・宮崎裕子氏 (NHK, 6月24日), 岡部昌幸氏 (東京都庭園美術館, 6月26日, 10月18日及12月21日), 秋山平三郎氏 (あきやま取締役, 6月26日), 長田利昭氏 (静岡市観光協会, 6月27日), 染葉隆夫氏 (静岡市観光協会, 6月27日及7月23日), 原長次郎氏 (静岡県立美術館副館長, 7月3日), 太田晴通氏 (妙蓮寺, 7月5日), 相澤賢一氏 (インペリア・エンタープライズ, 7月9日・31日, 9月1日・2日及3月11日), 徳川斉正氏 (徳川博物館長, 7月13日及1月3日), 豊川大氏 (PEAO, 7月17日), 海野洋氏・山川俊博氏 (静岡市文化振興課, 7月23日), 落合広明氏 (静岡市観光協会, 7月23日), 長谷川孝徳氏 (石川県立歴史博物館学芸員, 7月26日), 天野忍氏 (静岡県教育委員会, 7月31日), 小田巻正敏氏・大多和直彦氏 (静岡コンベンションビューロー, 8月6日), 高野肇氏 (静岡市観光協会, 8月6日・7日及11日), カトウスタヂオ一行 (8月23日), 篠田嘉彦氏 (NHK, 8月26日及10月29日), 館野禎彦氏・毛利広史氏・旭充氏 (NHK, 8月26日), 井口信久氏 (川越市立博物館学芸員, 8月26日及12月31日), 西川秀紀氏 (紀州東照宮宮司, 8月30日), 北見登氏 (大塚巧藝社, 9月1日・2日, 11月15日及2月12日), 今井敏夫氏 (毎日新聞社出版局, 9月21日), 斎藤孝正氏 (文化庁, 9月25日), 熊谷紀子氏 (江戸東京博物館学芸員, 9月25日及12月1日), 小松大秀氏 (東京国立博物館漆工室長, 9月28日及12月1日), 柚垣康平氏 (静岡朝日テレビ, 10月1日), 安田衛子氏 (日本郵船物流グループ, 10月4日), 竹内礼子氏 (静岡の文化編集部, 10月8日), 川村邦子氏 (西北社, 10月16日), 岡本裕治氏 (静岡市広報課, 10月16日), 吉田典史氏 (静岡鉄道, 10月23日), 全国葵ライオンズクラブ170名 (11月1日), 岡崎俊明氏 (静岡新聞社出版局, 11月6日), 荒井魏氏 (毎日新聞社出版局, 11月8日), 木村学氏・加藤博司氏 (ウッディプロモーション, 11月11日), 近松鴻二氏・市川寛明氏 (江戸東京博物館, 11月18日), 塩沢方敏氏 (静岡市広報課, 11月20日), 田中哲夫氏 (鳥取市教育長, 11月25日), 北川則昭氏・住田高市氏・森田明子氏 (鳥取市教育委員会, 11月25日), 田辺勝弘氏 (日本テレビ, 11月26日), 阿蘇品保夫氏・林千寿氏 (八代市立博物館, 12月8日), 野村辰美氏 (熱田神宮宝物館, 12月24日), 井沢由美子氏 (NHKプロモーション, 1月1日), 徳川真木氏 (徳川博物館学芸室長, 1月3日), 清水寿明氏 (平凡社編集部, 1月20日), 三品和広氏 (NHK事業部, 1月26日・27日及2月19日), 高橋裕次氏 (文化庁文化財調査官, 2月4日), 大塚允信氏 (静岡市観光協会理事, 2月5日), 豊泉勝央氏 (テレビ東京ディレクター, 2月5日及11日), 竹本春二氏 (大塚巧藝社, 2月12日及23日), 山下徹氏 (静岡新聞社, 2月17日及3月19日), 横山保氏 (静岡市商工部参事, 2月23日), 久保田哲氏 (同主査, 2月23日及3月2日), 井上光起氏 (日本テレビディレクター, 2月23日), 榊玲子氏 (たばこと塩の博物館学芸員, 3月13日), 塚原明子氏 (名古屋城天守閣学芸員, 3月15日), 大槻圭介氏 (TV BOX, 3月15日), 小田誠太郎氏 (和歌山県立博物館学芸課長, 3月21日), 梅木春興氏 (漢国神社宮司, 3月30日)。

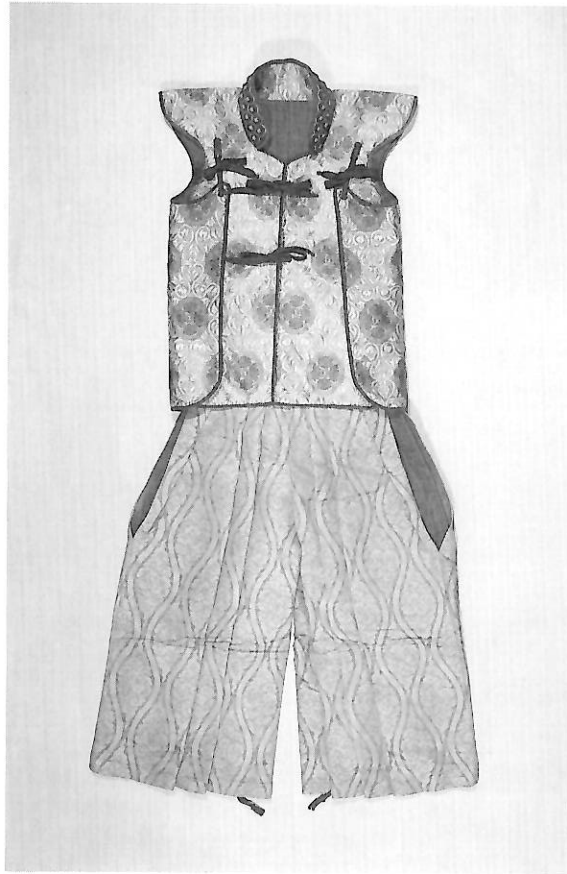


博物館の名品 27

白絲威具足（しろいとどしぐそく） 一領

兜は黒塗突盛形で銀箔押の鉢巻を結び、左右の角本に木製金箔の鯨形の脇立を挿す。鞆は日根野形の銀箔押切付小札の五段下りで一段を吹返し、白糸で毛引に威す。裾板は黒塗で葵紋を七ヶ金蒔絵する。眉庇・吹返ともに黒塗で金銅唐草毛彫覆輪を廻らし、吹返の据文にも葵紋を金蒔絵する。受張は藍木綿百重刺で、忍緒は三所付の紅縮緬とする。見上は朱塗。胴は鉄板黒塗の二枚胴で「八幡宮」を銀で研ぎ出し、腰二段と草摺七間五段を白糸で毛引に威す。小札は鞆同断。裾板は黒塗雁木地に葵紋を金蒔絵する。金具廻りの草所は黒塗葵紋金蒔絵に金銅覆輪を廻らす。肩には杏葉ぎようようを付す。胴裏は馬草の溜塗。頬当は肉色塗に髭の付く目の下頬当で垂は四段下り、威しは草摺と同断。籠手は黒塗五本篠で、家地は白地金入。裏は紺晒。大袖は七段で、威しは草摺と同断。佩盾は伊予札黒塗白糸威。家地は籠手と同断。臙当は金白檀七本篠で、猩々緋の十王頭には亀甲金かめこうが入る。鉸具摺は馬草溜塗。上下の緒は紅縮緬。家地は籠手と同断。六代將軍徳川家宣の童具足で、『御召御具足見取控』も遺されている。昭和63年修復。

胴高34.0cm 草摺26.0cm



博物館の名品 28

着籠（きごめ）一具

着籠は、非常の事態に備えて衣類の下に着用する武具で、鎧（多くは腹巻）の下に重ねて用いることもある。本品は徳川家茂の遺品として伝わる着籠で、満智羅（饅頭肩当）の胴衣と小袴で一具をなす。

満智羅は立襟の肩当に相引を連繫した小具足で、本品は表を青地窠に響唐草彩文錦、裏を玉虫色海気とし、中籠に亀甲金を敷き入れ、笹縁を藍草とする。但し、廻し立襟は表を黒羅紗にし、中籠の亀甲金を萌葱糸亀甲縫と紅菱縫止めとする。胸の上下及び脇廻しの相引の緒と褄は紺糸平組とする。着籠の小袴は、表を麴塵雲立涌文緞子、裏を玉虫色海気とし、前の腰より膝まで満智羅同様、中籠を亀甲金繫とする。腰紐は共裂。腰前の中央の子猿褄の帽額結は紺丸組緒で、結び根の地章を天平章とする。左右の寄褄の上に褄を止める九字縫が黒糸で施され、ひかけの根は紺平組とする。後腰は中央を九字縫、左右は五葉縫とする。裾結りは紺の丸組緒である。

満智羅 身丈82.3cm 衿24.0cm 襟巾7.6cm 重量1900g

着籠小袴 紐下丈85.0cm 前腰巾31.2cm 後腰巾27.3cm 前裾巾58.0cm

後裾巾28.3cm 前紐丈248.1cm 後紐丈189.3cm 紐巾3.8cm 重量1550g



博物館の名品 29

徳川斉昭和歌懐紙（とくがわなりあきわかかいし）「こと國の云々」 一幅

徳川斉昭（1800～1860）の尊攘思想を知る詠歌で、金霞・金砂子散の豪華な料紙に力強い筆致で「斉昭」と署名し、「こと國の道のまかこと拂ひなは天津御神の幸やうけなむ」とある。

斉昭は、武公治紀の三男で、第九代水戸藩主。神儒一致思想を鼓吹し、文武を奨励、民政の安定をはかる等、領内に善政をし一方、海防強化・山陵修補・飢饉対策等を幕府に建言し、子息の多くを御三卿の一橋家や池田・松平・土屋等の有力大名家の養子に入れるなどして幕政に重きをなし、国論に大きな影響を与えた。万延元年8月15日病歿。享年61。諡号烈公。

彩箋墨書 縦37.8cm 横47.2cm 昭和50年8月 徳川慶朝氏奉納

博物館の名品 30

登美宮吉子和歌短冊（とみのみやよしこわかたんざく）

「代々へても云々」 一枚

徳川慶喜の生母は、有栖川宮織仁親王の五女登美宮吉子である。文化元年（1804）に誕生。天保2年（1831）4月、水戸徳川家九代斉昭と結婚。同8年9月29日に慶喜が生まれている。吉子は聡明にして和歌をよくし、書は御家の有栖川流を習学して短冊・色紙・懐紙などに多くの自詠の遺作があり、後宇多天皇御製や『卜斎記』の写本も伝わる。また、『隅田川道記』・『日光道之記』と題する紀行文を筆にするなど和文にも長じた。

この短冊は、明治10年（1877）の詠で「竹 代々へてもかはらぬ色に生そひてうきふししらぬ庭の呉竹 吉」とあり、吉子74歳の筆である。この年、和宮の薨去や西南戦争等の出来事があったが、吉子の周辺は平穏であり、4月に静岡の慶喜を訪れて久能山に参詣したり、安倍川や大谷川の舟遊びに興じている。明治26年（1893）正月27日逝去。世寿90。法名貞芳院。諡号文明夫人。母吉子の死を弔む慶喜の詠歌がある。

母君の御病おしらせたまふよしきゝて

いそきて静岡より都へのほりけるにはや身

まかりたまひければ

つねならはかはりなしやとのたまはむ

みことはなきそかなしかりける

（『徳川慶喜歌集』）

彩箋墨書（銀霞入） 縦36.4cm 横6.0cm

平成5年6月3日購入



久能山東照宮博物館報
—— 第 15 号 ——
平成10年 8 月 1 日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市根古屋390
TEL.054(237)2437